



2026年7月1日

日本鉄道労働組合連合会

## 連合「2026平和行動 in 沖縄」に参画 「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう」

戦争による惨禍が再び起こることのないよう、人類普遍の願いである恒久平和を希求するとともに、戦没者の霊を慰めるため、「慰霊の日」と定められた6月23日、連合は、那覇文化芸術劇場「なは一と」において2026平和行動 in 沖縄「平和オキナワ集会」を開催した。集会には全国から874名の仲間が集まり、JR連合からは谷口昌隆組織局長が連合スタッフ（PAT=PeaceActionTeam）として参画したほか、JR東海ユニオンの仲間とともに合計4名が参加した。



JR連合からの参加者(右から谷口局長、住吉局長、JR東海ユニオン武内関西地本書記長、同吉本中央執行委員)

集会は、沖縄タイムス編集局長の赤嶺由紀子氏から「報道から平和を問う」と題した基調講演を受けた後、芳野友子会長が主催者を代表して挨拶し、「私たちは戦争の実相を知り、平和の尊さを学び、それを次の世代へ確実につないでいかなければならない。平和行動を通じて、多くのことを学び、家庭や職場、地域へ持ち帰ってほしい」と呼びかけた。その後、仲宗根哲連合沖縄会長、玉城デニー沖縄県知事から挨拶を受け、仲宗根会長から次の平和行動の開催地となる連合広島の大野真人会長にピースフラッグがリレーされた。最後に、堀川恵連合沖縄女性委員長から提起された平和アピールが採択され、平和オキナワ集会は閉会した。

翌24日は連合沖縄スタッフらの案内によるピースフィールド



ワークが開催され、参加者は戦跡や米軍基地等を視察し「世界の恒久平和の実現をめざす」ことを確認しあった。

JR連合は引き続き、連合をはじめ理念を同じくする国内外の仲間と連携し、綱領に掲げる“世界の平和の実現”に取り組んでいく。